

2. 活動報告（注1）

番号	7																		
テーマ	らしさの探求（米）																		
実施回数・期間 （注2）	令和7年4月～令和7年11月																		
対象クラス・ 対象人数	<table border="1"> <tr> <td>0歳児クラス</td> <td>1歳児クラス</td> <td>2歳児クラス</td> <td>3歳児クラス</td> <td>4歳児クラス</td> <td>5歳児クラス</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>7</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>人</td> <td>人</td> <td>人</td> <td>人</td> <td>人</td> <td>人</td> </tr> </table>	0歳児クラス	1歳児クラス	2歳児クラス	3歳児クラス	4歳児クラス	5歳児クラス					7	5	人	人	人	人	人	人
0歳児クラス	1歳児クラス	2歳児クラス	3歳児クラス	4歳児クラス	5歳児クラス														
				7	5														
人	人	人	人	人	人														
活動内容 （注3）	米不足のニュースを見た子どもたちからの声をきき、不足しているのなら自分たちで作ろうと提案し大喜びの子どもたちとどうしていけばよいのかを調べ米づくりに取り組んだ。詳しくは報告書にて。																		
活動における チェックリスト	グループ単位での活動等により、乳幼児同士の対話、関わりを促した。 ※乳幼児同士の関わりを促すためにどのような工夫をしたか 初めてのことであったので、お互い確認する姿や、観察したことを伝え合う姿があった。子どもたちの気づきを自然にフィードバックするよう努めた。土づくりなど一人では重い作業は、先生がサポートし、子どもたちが主体的に取り組むよう促した。 活動中の乳幼児の言葉、表情、ジェスチャー等の表現に着目し、メモ・写真・映像等で記録した。 ※記録をどのように行ったか 主に写真と文章で行った。 乳幼児一人ひとりが主体的に活動できるよう配慮した声掛け等を行った。 ※主体的な活動のためにどのような工夫をしたか 聞き役に徹し正しいことを押し付けないようにした。お水の量そのくらいでいいかな？等子どもたちに問いかけ考えて話し合っ行動してもらったようにした。 記録をもとに、乳幼児の関心や発見、表現を振り返った。 ※振り返りの実施方法 その日に感じたことを伝えあい、クラス会議で子どもの育ちや、改善点など具体的な話をし、報告にまとめた。 幼稚園等の各施設の教諭同士や保護者等に、探究活動の内容を共有した。 ※教諭や保護者等への共有方法 掲示板に報告書を掲示し周知をした。 次の探究活動の更なる充実に向け、新たな問いや環境の構成を考えた。 ※継続的な実施のための工夫 子どもの育ちを振り返ることにより、次にすべきことが見えてくるが多かった。振り返りを丁寧に行うことで新たな問いや、環境設定につながった。																		

（注1）活動報告は、複数の活動内容を実施した場合は、活動ごとに記入してください。

（注2）「実施回数・期間」欄には、今年度に継続的（月を単位とする複数月）に実施した取組の実施状況を記入してください。なお、原則、単発で実施した取組については対象になりません。

（注3）「活動内容」欄には、どのような取組を行ったのかがわかるよう記入してください。また、活動報告書等、取組を行ったことがわかる書類の写しを提出してください。

1. 活動のテーマ、問いを考える

【テーマ】

らしさの探求(米)

【問いを考える】

お米はどうやってできるのか

どうやって食べられるようになるのか

2. 活動スケジュール

2025年4月～2025年11月

(4歳児7名 5歳児5名)

3. 環境設定と探究活動の内容

【環境設定】

お米、苗づくり容器、土、バケツ、プランター

【探究活動の内容】

お米の粒からお米がどのように育ち、食べられるようになるのかを世話をしながら観察し学ぶ

4. 活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり

【5月】苗づくり「お米だね。お米からお米ができるの？」など興味津々で苗づくりに参加しました。ずっとお水がないと育たないことを保育士が伝えると順番にしようなど、自然と当番のような決まりを作る動きが見られました。芽が出てきたときには「お米から芽がでてる!」と興奮した様子で伝えてくれた。

散歩の道中、稲に似た植物を見つけ「お米みたいのが生えてる!」と保育士や友だちと共有する姿などがあり、お米づくりへの関心の高さがうかがえました。

【7月】苗ができて植え替えをするときに「こんなに背が高くなった」と改めて喜ぶ子どもたちの声を聴き「みんなが毎日お世話をしたからかな」と保育士が声をかけると「これからもする!」と嬉しそうに話す子どもが多くなりました。その後観察して絵を描いたところ「お日様があった方がうれしいよね」と苗の気持ちになって考えて太陽を書き足したり、「何本出てるかな」と友だちと一緒に数える姿もありました。

【8月】お世話を続けている子どもたちが「あれ?お水がぬるい、お湯みたい」「あったまっちゃうと元気がなくなっちゃうかも」「冷たいお水に入れ替えよう」等子どもたちから意見が出て定期的に保育士が水を抜き水の入れ替えをすることにしました。午前中だけ咲く小さな稲の花を見つけて宝探しのよう、見つけては喜ぶ姿もありました。毎日お世話をして観察しているから見つけられたことを保育士から伝えられ、喜びが増したようでした。

【11月】収穫・脱穀・もみすりに挑戦。保育士から説明を受けた後、稲を刈り取り、牛乳パックを利用して脱穀をしました。力を加減し、茎とお米を分けられるようそれぞれ考えながら分けられました。もみすりをして、いつも見ているお米のようになってきたのを見ると「お米になった」と喜んで繰り返しもみすりをしていました。自分の指で、一粒ずつ向いている子どもも出てくるほど夢中になってもみをとっていました。

思っていた量より少ないと感じた子どもが多かったようで、「こんなに少しか取れないんだね」と口にする子どもたち。保育士とみんなで話し合っ、このお米を来年の苗にして増やしていくことに決めました。

その後の給食時は最後の一粒まで丁寧に集めてピカピカになったお茶碗を保育士に見せてくれています。

1. 活動のテーマ、問いを考える

【テーマ】

らしさの探求(米)

【問いを考える】

お米はどうやってできるのか

どうやって食べられるようになるのか

2. 活動スケジュール

2025年4月～2025年11月

(4歳児7名 5歳児5名)

3. 環境設定と探究活動の内容

【環境設定】

米作りができる陽の当たる場所と米の苗、苗つくりの容器、土、バケツプランターなど米の栽培に必要なものを用意する。

【探究活動の内容】

お米の粒からお米がどのように育ち、食べられるようになるのかを世話をしながら観察し学ぶ。

4. 活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり

【5月】 苗つくり「お米だね。お米からお米ができるの？」など興味津々で苗つくりに参加しました。ずっとお水がないと育たないことを保育士が伝えると順番にしようなど、自然と当番のような決まりを作る動きが見られました。芽が出てきたときには「お米から芽がでてる!」と興奮した様子で伝えてくれた。

散歩の道中、稲に似た植物を見つけ「お米みたいのが生えてる!」と保育士や友だちと共有する姿などがあり、お米つくりへの関心の高さがうかがえました。

【7月】 苗ができて植え替えをするときに「こんなに背が高くなった」と改めて喜ぶ子どもたちの声を聴き「みんなが毎日お世話をしたからかな」と保育士が声をかけると「これからもする!」と嬉しそうに話す子どもが多くいました。その後観察して絵を描いたところ「お日様があった方がうれしいよね」と苗の気持ちになって考えて太陽を書き足したり、「何本出てるかな」と友だちと一緒に数える姿もありました。

【8月】 お世話を続けている子どもたちが「あれ?お水がぬるい、お湯みたい」「あったまちゃうと元気がなくなっちゃうかも」「冷たいお水に入れ替えよう」等子どもたちから意見が出て定期的に保育士が水を抜き水の入れ替えをすることにしました。午前中だけ咲く小さな稲の花を見つけて宝探しのように、見つけては喜ぶ姿もありました。毎日お世話をし観察しているから見つけられたことを保育士から伝えられ、喜びが増したようでした。

【11月】 収穫・脱穀・もみすりに挑戦。保育士から説明を受けた後、稲を刈り取り、牛乳パックを利用して脱穀をしました。力を加減し、茎とお米を分けられるようそれぞれ考えながら分けられました。もみすりをして、いつも見ているお米のようになってきたのを見ると「お米になった」と喜んで繰り返しもみすりをしていました。自分の指で、一粒ずつ向いている子どもも出てくるほど夢中になってもみをとっていました。

思っていた量より少ないと感じた子どもが多かったようで、「こんなに少ししか取れないんだね」と口にする子どもたち。保育士とみんなで話し合っ、このお米を来年の苗にして増やしていくことに決めました。

その後の給食時は最後の一粒まで丁寧に集めてピカピカになったお茶碗を保育士に見せてくれています。



5. 振り返り

毎回活動の後に振り返りを行う中で、子どもたちの関心の高さについての話が出た。お米の粒から緑色の芽が出たときなど、感動と興奮で、キラキラした顔になっていた。身近なものの育ちや変化を知ることができるというのはこんなにも子どもたちに感動を与えるのだと改めて感じた。目に見えて育っていくお米はわかりやすく、夏の暑い時期にぴんとしていた葉が元気がなくなってきたことに気づき原因を探そうとして水の温度に気づいたり、また、その解決策を考えたりと生きていくための力が育ったように思った。観察した様子を絵にかいた場面で、稲の気持ちになってどうすると育ちやすいかを考えて伝えてくれた子どもにこちらが感動し、思いやりの気持ちも育っていることを実感した。収穫、脱穀、もみすりの後に、少ししか収穫できなかったお米を目の前にあまりの少なさにびっくりしているようであったが、お米づくりにかかる時間や手間を経験し、一粒一粒を大切にしようという思いが自然と芽生えたようであった。図鑑等で知識を伝えるのと、時間をかけて経験するのでは、子どもたちは圧倒的に経験をする中で様々なことを感じ、考え、身につけていくということが多く、先につながっていくのだと我々保育士が目目の当たりにできた貴重な体験となった。